

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197600356		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホームハートの家六番館 ユニット1		
所在地	石狩市花川北六条三丁目16番地		
自己評価作成日	平成28年9月3日	評価結果市町村受理日	平成28年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

石狩市に開設し5年目のグループホームです。サービス付き高齢者住宅・小規模多機能型居宅介護サービスが併設しており、施設内のイベントを通じてフロア外の入居者様との交流が図れる環境です。ユニット1(2階フロア)では【おだやかで居心地よい、その人らしい生活を】をスローガンとし、ゆったりとした雰囲気の中で一人一人のペースに合わせ生活支援を行っています。職員、入居者様との会話や皆様と食器拭き、洗濯物たたみ等、おりがみを一緒に折るなど生活しているという安心や笑顔を感じて頂ける様努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0197600356-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年11月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はバス停から徒歩圏内に位置し、周辺は行政機関、医療機関、商業施設があり生活環境に優れている。地域とは相互の行事に交流があり、さらに近所の方々や他の介護事業所とは緊急時に協力関係を構築している。開設して4年が経過しているが管理者は防災訓練、救急救命講習、高齢者対策など地域全体の課題として行政、町内会と取り組んでいる。運営推進会議は毎回町内会関係者、多数の家族、行政関係者の出席を得て、避難訓練等に多くの意見が出され事業所の資向上に活かしている。利用者の日々の様子は、総合記録ノートや介護記録に詳細に記録して職員の共有としている。人材育成を重視している運営法人のバックアップ体制を得て、管理者と職員は、利用者の笑顔が自分達への評価と心得、利用者の思いを推し量り、利用者の満足感に繋がる支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざし、共に生き、共に感じあい、共に喜びあえる暮らしを創りつづける)という理念に基づき、職員は入居者一人一人の事案に悩み職員だけでなく医者やご家族様の支えも含め本人を支えていけるかを日々模索しています	職員は地域と利用者との関わりを念頭に置いた法人理念を共有し、さらにユニット毎に標語を策定している。日常業務や会議等で理念や標語の実践を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では地域の方も参加して下さり、施設の夏祭りでは多くの近隣住民が参加し楽しんで下さっています。又地域の花壇作りに参加したり、ボランティアの方々の訪問も多く多様な関わりがあります。	地域や行政機関、事業所の行事は交流する機会となっている。また、併設の2カ所の介護事業所との交流やボランティア受け入れも利用者の五感刺激になっている。今後、小学校との繋がりも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の専門職として、認知症について知って頂くラン伴イベントに参加したりと出来る範囲で行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月の会議では、ホームでの取り組みだけでなく地域、行政、ご家族様と意見交換する事によりよいケアとサービス向上に努めています	運営推進会議は町内会関係者、多数の家族、知見者、行政関係者の出席の下、年6回開催している。事業所の活動報告後に避難訓練や外部評価結果等に活発な意見交換が行われ、事業所の質の確保に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢者支援課の担当の方が2か月に1回訪問に来られたり、運営推進会議に参加してくださったりと、地域情報の連絡、ホームの取り組みを知っていただいています。	行政とは運営推進会議への出席や介護相談員の定期的な訪問があり、事業所の実情を伝え、課題を共有するなど、双方向な関係を構築している。市と連携した防災訓練を検討している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で(身体拘束抑制虐待防止委員会)を定期的に開催し、不適切な対応、ケア行為に学ぶだけでなく、法人全職員を集め大研修を開催し職員を学ぶ機会を作っています	身体拘束廃止に向けて法人や外部研修、勉強会等で禁止の対象となる行為や弊害について理解を深め実践に努めている。新人職員には業務の中で役職者が指導し、職員の共通認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会で学んだ事を会議等で発信し、又外部研修に参加するなど職員に発信しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の所、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用するケースが無い為に、具体的にに関することは無いが石狩市内での研修に参加し研鑽に努めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族様と契約書の読み合わせを行い本人様や家族からの質問にお答えしています。ケアプラン等についてもしっかりと説明しご家族様が質問しやすい雰囲気作りも心がけています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設置し、運営推進会議でご意見を頂いております。ご家族様来訪時の際は職員から声をかけお話できる雰囲気作りを心がけています。	家族に利用者の様子を来訪時や電話、年6回以上発行の「ハート便」に写真を載せ報告している。利用者や家族からは関わりの中でケアなどの相談を受け、職員間で解決策を協議している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する会議やフロア会議で管理者は職員に情報発信するだけでなく、職員の意見、質問等聞いています。又一人一人面談も行いその場で返答出来ないものについては法人会議で検討し後日答えています。	代表者は事業所に都度来訪し、現状把握に努めている。職員は行事等の各委員を担い、スキルを発揮している。また、日常業務や会議、個人面談等での意見や提案を運営やケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人一人の経験や知識を把握し本人がやりがいをもって働ける様日々の面談や会話などで評価に努めるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修としては各種の委員会で学ぶほか外部の研修に参加するなど職員の知識向上に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	石狩市内において定期的に各事業所との打ち合わせを行い管理者も参加している。またGF連絡協議会の参加やいしまちひろば(石狩における高齢者福祉等について具体的取り組みを行う有志の集まり)への参加等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度もお会いし、関わりをもっています。出来るだけ安心して入居出来る様に努めています。又入居後不安にならないよう担当者が中心となり、個別の関わりも含め、本人の話に傾聴できるよう心がけています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の困っている事や不安等話を聞き、本人様やご家族様の思っている事を理解し、相談しやすい関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人と家族と面談を行い本人が今現在必要としている支援やホームのサービス利用について話をしています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の立場になり、利用者様の出来る事、出来ない事を見極め職員との関係性作りを築ける様努力しています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いの話を聞き、今までの家族と利用者様の関係性を大切にしつつ、ここでの生活を支える努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様からお会いしに行く事は難しくなっているため、主にご家族様が面会に来ることが多い。又友人の方の来訪もあり喜ばれています。	ユニットにより若干の違いはあるが、家族が常に面会に訪れている。また、友人の来訪もあり、職員は歓迎している。馴染みの店での買い物や受診後に利用者の自宅付近を廻るなど、社会的繋がりを尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の体調、様子をみながら孤立しないように努めています。関わりが少ない方に関しては職員が寄りそい、一人にならないように努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居により退去となってもその後の様子をご家族様にお電話して伺うことがあります。お亡くなりになりご退去の場合は、ご家族様と写真を通じて生前の頃を一緒に振り返ったり自然と行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話を通し思いや暮らしについて要望に近づける努力をし意向を聞き記録に残しています。伝達が困難な入居様についてご家族様に聞いたり情報収集しながら把握するよう努めています。	職員は利用者の言動を記録に残し、要望の汲み取りに努めている。家族や医療関係者からの情報を参考に、利用者が心地良く生活できる支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で、住み慣れた地域で、どのように生活されたかを把握する事に努めています。入居後はその情報を踏まえ、本人にとって居心地のよい場所となれるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別シートを活用し、本人のその日の様子を会話や行動について記入している。又送りでも職員同士口頭でやりとりし把握に努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人一人に担当職員がおり、日々の関わりを深めて現状を把握し定期的に評価を行っています。大きな目標をかかげるのではなく本人の意向や職員の意見、ご家族様の思いをすりあわせケアプランを作成しています。	定期見直しや状態変化時の介護計画は、利用者や家族から生活に向けての要望を確認し、医療関係者の意見も取り入れ、全職員で利用者にとって最適な支援になる様協議している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録シートに食事量や水分、排泄タイミング等を一週間記録している。ケアプラン内容の実践評価や、生活状況の具体的様子の記録についても記入できるようになっており全体をとらえやすくなっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で認知症状が進まれたり、季節の変わり目で身体面、精神面が不安定な場面が起こりやすい。変化に気がついた時点で職員間だけでなく、必要に応じて医療や社会的サービスの力を合わせ早急な対応をしています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身近な地域資源として、もよりの生協や薬屋等入居者様と買い物して頂くことで、馴染みの土地に暮らしている安心感を感じて頂ける様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとして協力医療機関を定めていますがご家族様、入居者様に往診、かかりつけ医による外来受診を自由に選択して頂いています。職員は医師や看護師に日々の調子や変化を詳しく報告、相談できる体制作りに努めています	受診は、利用者や家族の希望を尊重してこれまでのかかりつけ医や協力医を主治医とし、通院や往診の支援を行っている。利用者の健康情報は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、訪問看護のケースはない。内科の往診の際は医師及び看護師に入居者様の情報を報告するとともに、医療の事に関してアドバイスを頂くなど積極的に行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が中心となり行っています。病院側からお問い合わせがあればその都度対応し、職員にも情報周知しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	入居者様の細かな変化にいち早く気づき、早い段階で通院し、ご家族様に相談、連絡を行っています。	入居時に医療体制を説明し、重篤時には改めて利用者や家族に対応指針を伝えている。看取りは行っていないが、職員は情報を共有し出来る支援に努めている。	重度化や終末期に対し事業所として出来ること、出来ないことを文書で明確化することを検討しているため、その実現に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網もあり、マニュアルもあるので職員対応行っています。又その都度救命講習を受けて頂く取り組みを行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2～3回夜間想定避難訓練を行っています。また地域の方、ご家族様にも参加して頂き訓練を行い、法人内の委員会でも勉強会を行い職員に周知しています。	消防署の指導の下、地域や家族の方々の参加を得て、系列の2カ所の事業所と合同で年3回夜間想定避難訓練を実施している。法人の防火管理委員会への出席や、地域の防火訓練に参加し非常時に備えている。	非常用電源や災害備蓄品の確保、系列の事業所や近くの介護事業所と非常時の協力体制は構築しているが、準備中の自然災害のマニュアル作成と実践的訓練の実施及び町内会等の関係機関との更なる連携を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者様に敬う気持ちを持ち接しています。又誇りを傷つけないように言葉かけに気をつけ接しています。	接遇マニュアルを整備し、研修等で羞恥心に配慮するなど適切なケアのあり方を学んでいる。日々の関わりで職員は利用者の意向を優先している。個人記録は戸棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に「やりませんか。」とお手伝いやレクのお誘いを行い、無理強いはなく、本人様の体調、気分を尊重しお声掛けしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の思いや、身体状況、気分によりペースは様々である為、食事、入浴やレク等職員から無理強いの声掛けでなく、本人様のペースでお誘いし本人の決定を大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が服を用意する場合本人と相談しながら決めていきます。また化粧をするなど本人と相談し行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などは、入居者様に野菜の皮むき、盛り付け等して頂いています。又食後は食器拭き等して頂き、お話をしながら楽しい雰囲気で行っています。	調理専門職員が栄養バランスに配慮し、パン食や麺類を含んだ献立を作成している。職員は、利用者と一緒に会話をしながら食事作業を行っている。外食や出前、駐車場で焼肉等も楽しみ事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方々にあった食事量で提供しています。食事が少ない入居者様には栄養調整食品や処方されたエンシュアを飲んで頂いています。また水分が取れない方はゼリー等で補っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアのお声掛けをし、職員の方でも確認し磨き残しあればお手伝い致します。また義歯についても定期的に洗浄を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分摂取や寝起きのタイミング等把握し2～3時間ごとにトイレ誘導やパット交換を行っています。できるだけオムツに排泄ではなくトイレでの排泄を心がけています。	自分の意志でトイレに向かう利用者もいるが、排泄チェック表を基に声かけや誘導を試み、トイレでの排泄支援により、失敗の軽減になっている。衛生用品の使用は最終手段としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に購入するヤクルトや医師に相談し下剤を調整し服薬して頂いています。また飲める方については牛乳を飲んで頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴は週2回入って頂いています。職員との会話を楽しみながら気持ちよく入れるように支援しています。身体状況によりシャワー浴や清拭等で清潔保持に努めています	同性介助に配慮し、週2回の入浴支援を行い立位が困難な利用者には、シャワー浴や清拭で保清に努めている。入浴時は、利用者の意向が把握できる機会でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子、体調をみながら休息して頂いています。又定期的にシーツを交換し気持ちよく安心して休めるように行っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を行う際は、誤薬を防ぐため、職員同士声を出し確認し服薬して頂いています。また服薬後は落下薬もないか確認している。処方変更の際は職員に周知し、本人の身体状況、様子を把握し記録に残し医師に報告しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に行われています食器拭き、モップかけ等のお手伝い、体操やボランティアさんによるレク等楽しく気分転換出来ていると思われる。入居者様との会話の中でやりたい事等聞き、又楽しめるレクを企画今後も楽しんで頂きたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出しています。また晴れた日はホーム内の散歩や日光浴を行い周辺の散策や花壇を眺めるなどして外気に触れる機会を取り入れています。また地域や他事業所のお祭りに積極的に参加されています。	事業所駐車場での日光浴や、周辺の散歩で花や野菜の生育を眺めるなど、外気に触れる支援に努めている。地域行事の参加や、ドライブを兼ねての花見等で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持することは出来ないが、必要に応じて本人と買い物に行かれています。本人様より手元にお金がなくて心配されて落ち込まれている時は管理していることを説明し安心して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様より不安の様子があれば職員からご家族様にお電話し本人とご家族様とお話される事もある。またご家族様よりお手紙が届くと喜ばれている場面もあります		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と一緒に作成した作品や季節の飾りが掲示されています。また定期的に清掃することで入居者様にとって家の様に温かみがある空間になるよう心掛けています。	併設の事業所と共有している玄関は十分な広さがある。各ユニットは趣きに違いはあるが、採光や空調、清掃等に配慮があり、居間には初雪に因んで雪だるまやクリスマスグッズを飾っている。居間は、事務室、台所が一体化しているため手狭な感じもあるが、その分利用者との距離感が近いとも言える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で皆様と楽しく談話したり笑顔多く楽しまれている様子も見られています。職員が間に入ってもらえる為の配慮は出来ていると思われる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族様やご本人にご自宅で使用していた家具や生活用品を自由にお持込み頂ける様お願ひしています。又居室には家族の写真等も飾られ混乱しない様配慮しています	表札を掲げている居室には備え付けのクローゼットに生活用品が収納され、使い慣れた調度品等が動線に配慮して置かれている。壁面には家族写真や趣味の物が飾られ、落ち着いた空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りはもろろんの事、入居者様がやってみたいと思える環境作りや洗濯物たたみや食材の下ごしらえ等職員が全て行うのではなく一人一人の能力を考えお膳立てしています		